

〔おたずね〕 シイタケ栽培のほだ木づくりで
植え込み年度の管理について教えてください。

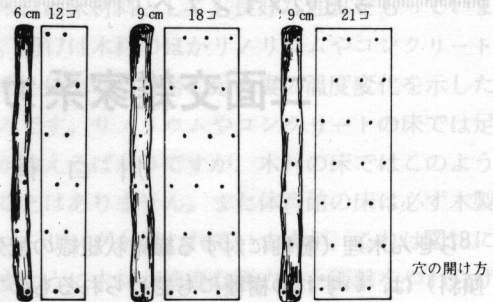
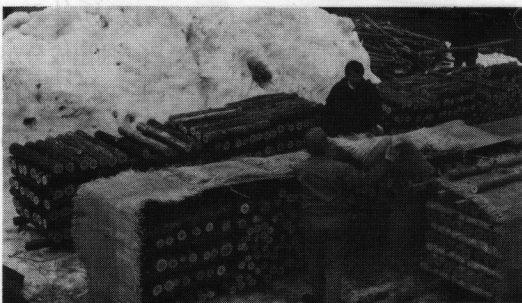
(H町, M生)

〔おこたえ〕 管理工程順に、植え込み前の原木水分の調整、植菌、本伏せ、仮伏せ、ほだ場の環境整備、ほだ木の天地返しなどがあります。ほだ木管理の適否によって、ほだ木一代からの収量が決まるといっても過言ではありませんので、各項目を追ってその要点を説明します。

原木の水分調整 道内で入手できる原木は、春伐採のものが多く、水分が非常に多いので、植菌前に水分を調整してやります(写真参照)。太いもの(直径10cm以上)と細いもの(直径9cm以下)に分けて、太いものは井桁積み、細いものは棒積みにして蔭干しし、適正な水分の35~38%に近づくようにします。

植菌 時期は暖い所では4月上旬から5月上旬、道東道北地方では5月上旬から下旬となります。種菌は信頼のおけるメーカーから購入し、副業、自家用には夏出の品種が適当です。穴あけ治具(刃先)は種菌の径に合ったものを選び、原木直径の2倍以上(図参照)の穴数を千鳥状にあけます。

仮伏せ 道内の植菌時期は、乾燥期に当たると夜間の気温が低いので、ほだ木に早く活着させる目的で仮伏せします。場所は日当たりが良く、水はけの良い所を選び、太いほだ木は棒積み、細いものはほだ寄せにして、乾き過ぎないように庇



蔭材料で囲って、気温が上がる6月上旬頃まで続けます。

本伏せ ほだ木の中に菌糸が十分蔓延させるために行うもので、場所は水はけが良く適度の通風がある南向きの日射が3~4割程度入る所が適当です。ほだ場の環境にもよりますが、一般に太いものは井桁積み、細いものはヨロイ伏せにします。井桁積みでは4~5回、ヨロイ伏せでは3~4回の天地返しをその年内に行います。

冬期積雪がある地方ではそのまま雪下とし、積雪のない地方ではほだ木を密に積み直し保温性を良くして越冬させます。(特殊林産科)

〔おたずね〕 ナメコのほだ木栽培を行う際に
注意すべき点などをうかがいたい。(N生)

〔おこたえ〕 ナメコのほだ木栽培は、シイタケと異なり非常に乾きに弱い欠点があります。原木はできるだけ太め(直径15~30cm)のものを選び、作業がしやすい長さに玉切します。樹皮が厚い原木では植え穴が材部まで十分に入るように深く開ける事に留意して、植え込みから仮伏せまではシイタケと同じ管理(前項参照)で良いのですが、本伏せからは別管理となります。

ナメコの菌糸は、多湿な環境を好み比較的低温でも菌糸が伸びますので、伏せ込む場所はシイタケよりも冷湿で、日射が2~3割入り朝日が当たり夕日の当たらない所が良いでしょう。ほだ木の伏せ込み方は、太いものは片枕伏せ、細いもので

は直接地面に接地伏せします。伏せ込み後は天地返しを初年度2～3回。2年目以降は6～7月頃1回行います。樹種により多少の差はありますが、2年目の秋から発生があり、この時期雨量が少ない時は適宜散水してやります。(特殊林産科)

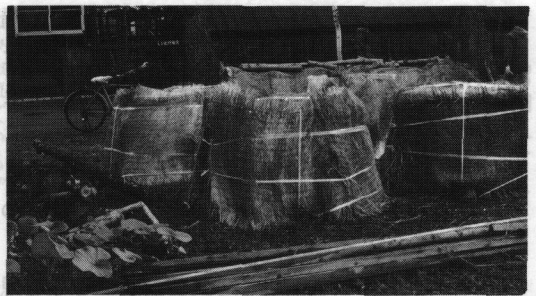
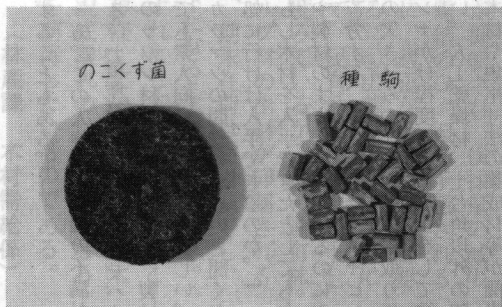
【おたずね】ほだ木に植菌する際の留意点と、2年目以降の育成ほだ木の管理について教えてください。(N町, T生)

【おこたえ】植菌時の留意点 シイタケほだ木の標準穴数は、別項のとおり木口直径の約2倍以上としますが、植穴の深さは次の点に留意してきめて下さい。

穴のあけ方には、浅穴式一種駒の長さ一ぱい、と深穴式一種駒の長さ+バカ穴、があります。浅穴式は材表面の蔓延が早く進みますが、ほだ木内部のほだ化が遅れ、深穴式では全体に菌糸が伸び、早くほだ化できます。

種菌にはノコずに培養したもの、木片に培養したものの2種類があります。どちらでも深穴にして初期管理中は、植え穴部分が乾かないように心がけて仮伏せ、本伏せしなければなりません。

2年目以降の管理 初年度ほだ木は、育成管理次第で2夏以降に走り子の発生がみられます。発生形式には強制的な浸水発生と露地の自然発生があります。ほだ木が未熟なまま浸水しますと奇形のきのこが発生し、ほだ木の菌糸が弱まり寿命が短くなりますので、浸水発生には細心の注意が必要です。道内の気象ではほだ木の完熟は品種に



よって2～2.5年かかりますので、浸水発生の目途として2年目秋と3年目春の自然発生の状況をよく見きわめてから、6月以降に年内2～3回の浸水操作を行い発生させます。

なお、自然発生では毎年春と秋2回天地返しを行い、刺激を与えますときのこが沢山発生します。(特殊林産科)

◆ほかに次のおたずねがありました。

・カラマツ材の割れ防止にバルブ廃液による処理が効果的だと聞きましたが、いかがでしょうか。

〔指導部長〕

・カラマツのスライス単板からLVLを製造することを検討していますが、技術的な問題点などいかがですか。

〔木材部長〕

・ダグラスファーとカラマツの丸太を用いて遊具を製造していますが、丸太に割れが生じて困っています。簡単な割れ防止法はないでしょうか。

・散水貯木しているブナ材を製材、天然乾燥後、人工乾燥していますが、変色により製品の見えが悪くなります。対策をうかがいたい。

〔材質科〕

・厚さ1.5mmのブナ単板で10～20プライの成型合板を製造していますが、狂いによる歩留まりの低下で困っています。狂いの防止法をおたずねしたい。

〔材質科 接着科〕

・木材の硬さ試験を行う際の留意点などいかがですか。

〔強度科〕

・カラマツ間伐材で丸太小屋を建てようと考えています。材の加工方法、施工方法など指導して下さい。

・宅配牛乳の木製受け箱が半年ぐらいたつと、幅はぎした板にすきまが生じたり、フタが反ったりして取り替えねばなりません。もっと長もちする加工法があったら教えて下さい。

〔加工科〕

- ・輪切り材を乾燥したいのですが、PEG処理の方法などうかがいたい。
- ・ストローブマットを利用して民芸品を作ろうと思っています。材の乾燥方法をおたずねしたい。
- ・回転乾燥機を使用していますが、回転速度、風量などが適切かどうかチェックする際の留意点をおたずねします。
- ・割箸の乾燥を行っていますが、部分的に乾燥ムラと変色が発生します。原因と対策をうかがいたい。
- ・厚さ 30mm のイタヤ材を乾燥後二次加工したところ、ネジレ、マガリの発生が多く困っています。

す。防止策をうかがいたい。

- ・自社で考えた乾燥スケジュールでスギ、ブナを乾燥していますが、割れや変色が多く発生します。改善すべき点など指導して下さい。
- ・ミズナラ板材の乾燥を行っています。含水率のバラツキが大きいのでイコーライジングを2時間程度行ってからコンデショニングをしていますが、あまり効果がありません。問題点を教えて下さい。
- ・床柱用銘木の天然乾燥中に割れが発生し困っています。割れ防止剤の使い方などうかがいたい。
- ・ブナ材の乾燥で、ステッカーマークを防止する方法をうかがいたい。〔乾燥科〕

◇

技術相談をされるとき、相談内容について担当科がお分かりにならないときは、窓口の技術科へ申し出て下さい。(電話 0166-51-1171・内線60番)

手作りの

最近、手作りの

木工愛好家

木工に関する雑誌や単行本を書店で

見かけたり、木工を趣味としている人々に会う機会が多い。

それらの人々の多くは、ヒゲをたくわえロックを聞きパイプをくゆらし、作業服にも気を配りカラフルなシャツやジーンズが似合う若者で、ドブネズミ色の作業服の我々とはやや異なるムードの人々である。

作品は木彫りや棚類の小物から住宅や山小屋の大物まで広範囲にわたっているが、中でも丸太や角材を校倉(あぜぐら)風に組み上げたログキャビン造りに人気があり、実際にスキールッチを建てた経験を持つ人や、共同で大規模にカラマツ林を購入しログキャビン村の建設を計画しているグループもある。

どの人々にも共通していることは木材や皮革等の天然材料を好み、その良さを何とか作品に生かしたいと考えていること、中には外国の専門書を取り寄せて勉強する人もいろいろ研究熱心なことである。

ただ、木材の良さに対する感情的な思い入れがややもすれば先行する傾向があり、木材の性質や基本的な技術に対する知識が十分でないことを

感ずることもある。

一方、この人達には共通の不満がある。「道産材の入手が困難でパールのラワン材を買っているが、製材所でも素人向けに対応してほしい。又カラマツの間伐材が多いと聞くが何処に行けば入手できるのか。」

「もし木材を入手できたとしても丸太や製材のままでは加工するのに大変苦労する、木材店でログキャビン用の欠き込みや、製材品の木取りやカンナかけ程度の機械加工をして欲しい。人工乾燥材、土台角以外の防腐木材や規格寸法の集成材等が簡単に入手できないか。」

「関連する木製部品があまりにも少なすぎる。ログキャビンにアルミサッシでは木の良さは出せない。必要部品を製造販売して欲しい。」

「製材品だけでなく木材や木工技術の基礎知識も伝えて欲しい。」等々がそれである。

もちろん手作りの木工家たちの需要量は少量散在的で木材業界の起死回生の妙薬にはなり得ないとしても、この意見は木材界への示唆が多く、行政の施策である高次加工、新製品、新技術の開発等とも一致している。彼らの希望に応えられるように業界と共に努力したい。

(D・Y)